



基本的な監視タスクの設定

ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

基本的な監視タスクの設定	1
日々の監視	1
週単位と月単位のパフォーマンスの傾向を使用してパフォーマンスの問題を特定	1
パフォーマンスしきい値を使用したイベント通知の生成	1
パフォーマンスしきい値の設定	2
アラートの追加	2
アラートの設定	4

基本的な監視タスクの設定

日々の監視

監視を毎日実行して、注意が必要なパフォーマンスの問題がすぐに発生しないようにすることができます。

手順

1. Active IQ Unified Manager UI から * Event Inventory * ページに移動して、現在のイベントと廃止状態のイベントをすべて表示します。
2. [表示]*オプションからを選択し Active Performance Events、必要な操作を決定します。

週単位と月単位のパフォーマンスの傾向を使用してパフォーマンスの問題を特定

パフォーマンスの傾向を特定すると、ボリュームレイテンシを分析して、クラスタの使用率が高すぎるか低すぎるかを特定するのに役立ちます。同様の手順を使用して、CPU、ネットワーク、またはその他のシステムのボトルネックを特定できます。

手順

1. 使用率が高すぎるか低すぎる疑いがあるボリュームを探します。
2. [ボリュームの詳細] タブで、[*30 d] をクリックして履歴データを表示します。
3. [データのブレイクダウンの条件] ドロップダウンメニューで、[Latency] を選択し、[Submit] をクリックします。
4. クラスタコンポーネント比較グラフで「* Aggregate」を選択解除し、クラスタのレイテンシをボリュームレイテンシグラフと比較します。
5. アグリゲートを選択し、クラスタコンポーネント比較チャート内の他のすべてのコンポーネントの選択を解除して、アグリゲートのレイテンシをボリュームレイテンシチャートと比較します。
6. [読み取り/書き込みレイテンシ] グラフをボリュームレイテンシのグラフと比較します。
7. クライアントアプリケーションの負荷が原因でワークロードの競合が発生していないかどうかを確認し、必要に応じてワークロードをリバランシングします。
8. アグリゲートの使用率が高すぎて競合を引き起こしていないかどうかを確認し、必要に応じてワークロードをリバランシングします。

パフォーマンスしきい値を使用したイベント通知の生成

イベントは、事前に定義された状況が発生したとき、またはパフォーマンスカウンタの値がしきい値を超えたときに、Active IQ Unified Manager で自動的に生成される通知です。イベントによって、監視しているクラスタ内のパフォーマンスの問題を特定できます。特定の重大度タイプのイベントが発生したときに自動的に E メール通知を送信するアラートを設定できます。

パフォーマンスしきい値の設定

パフォーマンスしきい値を設定して、重大なパフォーマンスの問題を監視することができます。ユーザ定義のしきい値は、システムが定義されたしきい値に近づいたとき、または超えたときに警告または重大イベントの通知をトリガーします。

手順

1. 警告イベントと重大イベントのしきい値を作成します。
 - a. [* Configuration * > * Performance Thresholds *] を選択します。
 - b. [作成 (Create)] をクリックします。
 - c. オブジェクトタイプを選択し、ポリシーの名前と説明を指定します。
 - d. オブジェクトカウンタの条件を選択し、警告イベントと重大イベントの制限値を指定します。
 - e. イベントを送信するために制限値に違反する必要がある期間を選択し、[保存] をクリックします。
2. しきい値ポリシーをストレージオブジェクトに割り当てます。
 - a. 以前に選択したクラスタオブジェクトタイプのインベントリページに移動し、View オプションから Performance * を選択します。
 - b. しきい値ポリシーを割り当てるオブジェクトを選択し、* しきい値ポリシーの割り当て * をクリックします。
 - c. 前の手順で作成したポリシーを選択し、* ポリシーの割り当て * をクリックします。

例

重大なパフォーマンスの問題を特定するためにユーザ定義のしきい値を設定することができます。たとえば、ボリュームのレイテンシが20ミリ秒を超えるとMicrosoft Exchange Serverがクラッシュすることがわかっている場合は、警告しきい値を12ミリ秒、重大しきい値を15ミリ秒のように設定できます。このしきい値の設定を使用して、ボリュームのレイテンシが制限を超えたときに通知を受け取ることができます。

	Warning	Critical
Object Counter Condition*	Average Latency ms/op	ms/op
	12	15

アラートの追加

特定のイベントが生成されたときに通知するようにアラートを設定できます。アラートは、単一のリソース、リソースのグループ、または特定の重大度タイプのイベントについて設定することができます。通知を受け取る頻度を指定したり、アラートにスクリプトを関連付けたりできます。

必要なもの

- イベント生成時に Active IQ Unified Manager サーバからユーザに通知を送信できるように、通知に使用するユーザの E メールアドレス、SMTP サーバ、SNMP トラップホストなどを設定しておく必要があります。
- アラートをトリガーするリソースとイベント、および通知するユーザのユーザ名または E メールアドレスを確認しておく必要があります。

- イベントに基づいてスクリプトを実行する場合は、[スクリプト]ページを使用してUnified Managerにスクリプトを追加しておく必要があります。
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

タスクの内容

ここで説明するように、[Alert Setup]ページからアラートを作成するだけでなく、イベントを受信したあとに[Event Details]ページから直接アラートを作成することもできます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 * Storage Management * > * Alert Setup * をクリックします。
2. [* Alert Setup*] ページで、 [* Add] をクリックします。
3. [* アラートの追加 *] ダイアログボックスで、 [* 名前 *] をクリックし、アラートの名前と概要を入力します。
4. [* リソース] をクリックし、アラートに含めるリソースまたはアラートから除外するリソースを選択します。

[* 次を含む名前 (* Name Contains)] フィールドでテキスト文字列を指定してフィルタを設定し、リソースのグループを選択できます。指定したテキスト文字列に基づいて、フィルタルールに一致するリソースのみが使用可能なリソースのリストに表示されます。指定するテキスト文字列では、大文字と小文字が区別されます。

あるリソースが対象に含めるルールと除外するルールの両方に該当する場合は、除外するルールが優先され、除外されたリソースに関連するイベントについてはアラートが生成されません。

5. [*Events] をクリックし、アラートをトリガーするイベント名またはイベントの重大度タイプに基づいてイベントを選択します。



複数のイベントを選択するには、Ctrlキーを押しながら選択します。

6. [*Actions] をクリックし、通知するユーザを選択し、通知頻度を選択し、SNMPトラップをトラップレシーバに送信するかどうかを選択し、アラートが生成されたときに実行するスクリプトを割り当てます。



ユーザに指定したEメールアドレスを変更し、アラートを編集用に再度開くと、変更したEメールアドレスが以前に選択したユーザにマッピングされなくなるため、[Name]フィールドには何も表示されません。また、[ユーザ]ページで選択したユーザのEメールアドレスを変更しても、変更したEメールアドレスは更新されません。

SNMPトラップを使用してユーザに通知することもできます。

7. [保存 (Save)] をクリックします。

アラートの追加例

次の例は、次の要件を満たすアラートを作成する方法を示しています。

- アラート名： HealthTest
- リソース：名前に「abc」を含むすべてのボリュームを対象にし、名前に「xyz」を含むすべてのボリュームを除外します。
- イベント：健全性に関するすべての重大イベントを含む

- アクション：「sample@domain.com」、「テスト」スクリプトが含まれており、15分ごとにユーザに通知する必要があります。

[Add Alert]ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

1. をクリックし、[アラート名]*フィールドにと入力します HealthTest。
2. [* リソース] をクリックし、[含める] タブで、ドロップダウン・リストから [* ボリューム] を選択します。
 - a. [名前に次の文字を含む]フィールドにと入力し abc、名前に「abc」を含むボリュームを表示します。
 - b. [Available Resources]領域で**を選択し[All Volumes whose name contains 'abc']、[Selected Resources]領域に移動します。
 - c. をクリックし、[名前に次の文字を含む]フィールドにと入力し xyz、[追加]*をクリックします。
3. [* イベント] をクリックし、[イベントの重要度] フィールドから [クリティカル*] を選択します。
4. [Matching Events] 領域から [*All Critical Events] を選択し、[Selected Events] 領域に移動します。
5. [Actions]*をクリックし、[Alert These Users]フィールドにと入力します sample@domain.com。
6. 15 分ごとにユーザに通知するには、「* 15 分ごとに通知する」を選択します。

指定した期間、受信者に繰り返し通知を送信するようにアラートを設定できます。アラートに対してイベント通知をアクティブにする時間を決める必要があります。

7. 実行するスクリプトの選択メニューで、* テスト * スクリプトを選択します。
8. [保存 (Save)] をクリックします。

アラートの設定

アラートについて、アラートをトリガーする Active IQ Unified Manager のイベント、アラートを受け取る E メール受信者、およびアラートの頻度を指定することができます。

必要なもの

アプリケーション管理者のロールが必要です。

タスクの内容

次のタイプのパフォーマンスイベントに対して固有のアラートを設定できます。

- 重大イベント：ユーザ定義のしきい値に違反したときにトリガーされる
- 警告イベント：ユーザ定義のしきい値、システム定義のしきい値、または動的なしきい値に違反したときにトリガーされる

デフォルトでは、すべての新しいイベントについて、Unified Manager の管理者ユーザに E メールアラートが送信されます。Eメールアラートを他のユーザに送信するには、そのユーザのEメールアドレスを追加します。



特定のタイプのイベントに関するアラートの送信を無効にするには、イベントカテゴリのすべてのチェックボックスをオフにする必要があります。この操作によって、ユーザインターフェイスにイベントが表示されなくなることはありません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 * Storage Management * > * Alert Setup * を選択します。

[Alert Setup]ページが表示されます。

2. [* 追加] をクリックし、各イベントタイプに適切な設定を行います。

Eメールアラートを複数のユーザーに送信するには、各Eメールアドレスをカンマで区切って入力します。

3. [保存 (Save)] をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。